

令和3年度 2年「家庭総合」シラバス

1 科目・単位・履修学年・区分

教科	科目	単位	履修学年	区分
家庭科	家庭総合	2単位	2学年	必修（文理型・理型）

2 使用教科書・副教材

教科書：「家庭総合」（第一学習社）、

副教材：「最新2021 生活ハンドブック」資料集&成分表（第一学習社）

3 科目「家庭総合」の目標

人の一生と家族、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、衣食住、消費生活などに関する知識と技術を総合的に習得させ、生活課題を主体的に解決するとともに、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

4 授業形態・方法

通常の講義形式と、グループ単位での実験・実習、疑似体験、シミュレーション学習などを通して体験的に学習を深めます。また、ホームプロジェクトによる発展学習も行います。座学、実習内容によって教室の移動がある場合もあります。いずれの場合も教科書及び資料集を用います。

6 成績評価の方法

成績評価は定期考査の成績、提出物（ファイル・実習の記録・課題）、授業態度、ホームプロジェクトなどをみて総合的に判断します。

1学期	期末考査：60%、提出物：30%、態度：10%
2学期	期末考査：50%、提出物：30%、態度：10%、ホームプロジェクト：10%
3学期	学年末考査：60%、提出物：30%、態度：10%
学年末	（1学期の評定＋2学期の評定＋3学期の評定）／3

7 評価の観点（評価の観点及び評価方法）

	a. 関心・意欲・態度	b. 思考・判断・表現	c. 技能	d. 知識・理解
評価の観点	・人の一生と家族、衣食住生活、子どもの発達と保育などについて関心をもち、その充実向上をめざして主体的に取り組むことができるとともに、実践的な態度を身に付けようとする。	・人の一生と家族、衣食住生活、子どもの発達と保育などについて生活の充実向上を図るための課題を見だし、その解決を目指して思考を深めることができる。 ・課題解決に向けて適切に判断し、自分なりに工夫しまとめることができる。	・衣食住生活の科学と文化、子どもの発達と保育などに関する技術を総合的に身に付け、実践できる。	・人の一生と家族、衣食住生活の科学と文化、子どもの発達と保育などに関する知識を総合的に身に付けることができる。
評価方法	・授業、実習への参加の仕方や態度 ・実習レポート ・ノート ・課題 ・ワークシート	・定期考査の論述問題 ・実習レポートやプリントの考察 ・発表の内容	・実習の実技（準備、工程、片付） ・作品（被服実習） ・実習レポート ・課題	・定期考査 ・実習記録の考察

8 年間計画

月	学習内容	指導目標・指導上の留意点 評価の観点	時 数	進 度	評価方法 【使用機器等】
4	オリエンテーション	・学習の意義や進度、評価の方法を理解させる	1		<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・ワークシート ・課題
	6章 装う 第1節 人と衣生活 1. 装うということ	<ul style="list-style-type: none"> ・被服の機能には、保健衛生的機能と、社会的・文化的機能があることを理解する。 ・被服のもつ保健衛生的な機能や社会的・文化的な機能を生かし、望ましい着装について考える。 ・人間は体温を一定に保つため、被服の素材やデザイン、着装の工夫によって快適な被服気候をつくり出してきたことを理解する。 ・なぜ被服を着用するようになったのかを考える。 ・世界各地の民族衣装には、それぞれの地域の気候・風土とのかかわりがあることを知る。 ・着物という日本の伝統衣装についての理解を深め、伝承に努めるとともに、個性を表現できる力を身につける。 	1		
	2. 季節・気候・風土と異文化	<ul style="list-style-type: none"> ・アパレル産業の発展にともない、現代の私たちの衣服のほとんどが既製服化していること。情報化により世界中のファッション情報の入手や購入が容易になり、既製服の原産国も多様化し衣生活が国際化している現状を理解する。 ・衣服は着用によっては人体に危害をおよぼすこともあることを知る。 	1		
	3. 衣生活の課題をめぐって	<ul style="list-style-type: none"> ・近年の消費行動の多様化・個性化が多数の死蔵品を生む要因となっていることを理解し、消費のあり方を考える。 ・中古衣料のリユースやリフォームの工夫をする。 ・衣生活の面からできる、環境に負荷を与えない行動について考え実践する。 	1		
	4. 衣生活と環境	<ul style="list-style-type: none"> ・被服材料の大部分をしめる布について、その原料である繊維の種類と特徴を理解する。 	2		
5	第2節 被服材料 1. 被服材料の種類	<ul style="list-style-type: none"> ・着心地に影響する布の保健衛生的機能について理解しどのような布が着心地がよいかを考える。 ・繊維の性能を改善するために施されている加工について、その目的や用途を知る。 	2		<ul style="list-style-type: none"> ・期末テスト ・実習レポート ・実習課題 ・実技テスト 【裁縫セット】 【ミシン】 【視聴覚教材】
	2. 被服材料の性能	<ul style="list-style-type: none"> ・被服は、気候・風土により異なる一方、人生という長い時間軸で見るとライフステージによっても違ってくることを理解する。 	1		
	第3節 被服の選択と管理 1. ライフステージと被服	<ul style="list-style-type: none"> ・被服を購入する際には品質表示をもとに取り扱い絵表示やサイズ、着心地、動きやすさ、縫製の善し悪しなどを調べることの重要性を理解する。 ・取り扱い絵表示の種類と意味、サイズ表示の見方について理解する。 	1		
	2. 被服の選び方	<ul style="list-style-type: none"> ・洗濯には湿式洗濯と乾式洗濯があり、それぞれの特性を理解したうえで、品質に応じて洗濯することを学習する。 ・家庭の湿式洗濯に用いられる洗剤について、その働きや成分を知り、環境に配慮した洗濯の工夫について考える。 	2		
6	3. 洗濯のしくみと洗剤	<ul style="list-style-type: none"> ・漂白・のりつけ・アイロンなどの手順を知る。 ・被服の劣化防ぐためには、よい被服を選択すること、手入れすることで適切に管理することが必要であることを理解する。 	2		<ul style="list-style-type: none"> ・日本では、着用している被服のほとんどが既製服化している。自分の身体寸法にあわせて、既製服を正しく選ぶための採寸の方法を学ぶ。
	4. 被服の手入れと保管	<ul style="list-style-type: none"> ・被服製作の手順を理解する。手づくりを部分的に加えることや衣服を製作することが計画できるようにする。 	2		
	第4節 被服の構成と製作 1. 被服の構成と成型 2. 体型・採寸と製作手順	<ul style="list-style-type: none"> ・被服製作に必要な基礎的な知識・技術を身につける。 ・具体的には、縫うために必要な用具、布地の厚さと針と糸、縫いしろのしまつ、布地の幅と布地の表、しるしつけ・裁断、アイロンかけ、しつけなどを扱う。 	2		
7	3. 被服製作の基礎（1） 被服製作の基礎（2）		2		【被服製作実習】 ぞうきん制作 【被服製作実習】 トートバッグ制作
	【被服製作実習】 ぞうきん制作		2		
7	【被服製作実習】 トートバッグ制作		6		

	<p>生活の課題にチャレンジしよう</p> <p>「ホームプロジェクト」と「学校家庭クラブ活動」</p> <p>1. 課題の解決をめざして</p> <p>2. 実践例</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ホームプロジェクト」は、本文の学習成果を踏まえて、生活のなかから課題を見だし、個人単位で主体的に計画をたてて問題の解決をはかる。 ・次の手順で課題に取り組む。 <p>①課題を見いだす→②題目を選択する→③実施計画を立てる→④実践する→⑤評価する→次の活動にかかす</p>	2		<p>【視聴覚教材】</p> <p>【ホームプロジェクト】</p>
9	<p>ホームプロジェクト発表</p> <p>6章 食べる</p> <p>4節 食生活をデザインする</p> <p>5. 調理の基本</p> <p>【調理実習①】</p> <p>和風献立</p> <p>親子丼、豆苗の和え物、わかめと豆腐のすまし汁</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームプロジェクトの発表を通して反省・評価を行い次の課題解決へとつなげさせる。 ・食品の選択・計量・器具の扱い、および包丁の使い方、野菜の切り方など調理の基本技術を習得する。 ・親子丼のつくり方を学ぶ。 ・青菜のゆで方と、あえ物のつくり方を学ぶ。 ・だしのとり方と、一番だし・二番だしの使い方を学ぶ。 	2 2 3		<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・ワークシート ・実習レポート <p>【ホームプロジェクト】</p> <p>【視聴覚教材】</p>
10	<p>4. 食事づくりの手順</p> <p>1節 人と食生活</p> <p>1. 食べるということ</p> <p>2. 食生活の課題をめぐって</p> <p>3. 食文化は気候・風土とともに</p> <p>4. 食生活と環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養・嗜好・味わい・予算・調理時間などを考えて合理的に献立が作成できるようにする。 ・食物の役割を認識し、食が心身を育むうえでも大切なものであることを理解する。 ・日常の食生活のなかで心がけるべきポイントを知り、それを実践できる力を養う。 ・現在の食生活の傾向を知り、健康で安全な食生活を営むための基本を理解する。 ・栄養摂取のアンバランスや不規則な食生活によって、生活習慣病や心身の不調がもたらされることを知る。 ・PFC比率に注目し、日本は脂質のとりすぎの傾向にあることを理解する。 ・日本の風土から生まれた日本食の基本「一汁三菜」を理解し、日本の食文化を知る。 ・日本に昔から伝えられてきた和風の食事がやがて洋風化され、現在の「新しい日本型食事」にいたったことを理解する。 ・日本の食料自給率の低下や輸入依存の実情を知り、その原因を探るとともに、食料の安定供給について考える。 ・無駄のない食材の使用や、環境に負荷をかけない食生活上の工夫を考える。 	1 1 1 1 1 1		<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・ワークシート ・実習レポート <p>【視聴覚教材】</p>
11	<p>1章 人生をつくる</p> <p>1章 これからの生き方と家族</p> <p>1節 青年期を生きる</p> <p>①自分らしい人生とは</p> <p>②青年期の課題</p> <p>③ワーク・ライフ・バランス</p> <p>④男女の平等と相互の協力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・心や知性などの精神面において、人間は生涯をとおして発達していく存在であることを認識する。 ・人間の発達においては、ライフステージごとに発達課題があり、各ライフステージの課題を達成すると次のライフステージへ移行しやすくなることを理解する。 ・青年期は、自分の存在や生き方を考え、アイデンティティを確立する時期であることを認識する。 ・青年期の自立には、おもに生活的自立、精神的自立、経済的自立、性的自立があることを知る。 ・家事労働と職業労働の特徴を比較するなかで共通点と相違点を知り、その課題について考える。 ・家事労働と職業労働を両立していくうえで「家事労働の社会化」の果たす意味について考える。 ・仕事と生活の調和をめざし、家庭生活と職業労働を両立するためには、男女がどのように協力すればよいか、その課題について考える。 ・「性」と男女の平等を考えていくうえで重要な概念である「ジェンダー」について定義し、「セックス」との違いを確認しながら、その正しいとらえ方を理解する。 ・いまだ根深く残っている性別役割分業意識について実情を知り、どう解決していくべきか考える。 ・男女平等および男女共同参画に向けての各種の法令について基本的な理解をはかる。 ・女性が働くうえでの条件が徐々に整備改善されつつあるが、依然として多くの課題が残っていることを理解する。 	1 1 1		<ul style="list-style-type: none"> ・期末テスト ・授業態度 ・発問評価 ・ワークシート ・ノート提出 ・実習レポート <p>【視聴覚教材】</p>

	<p>テーマ学習 「家事の役割分担を考える」</p> <p>【調理実習②】 中国風献立－豆腐を主菜とした基本の献立</p> <p>麻婆豆腐、粟米湯、奶豆腐</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1章の学習内容を振り返り、家事労働について考える。 ・かたくり粉でとろみをつけた中華風スープをつくる。 ・寒天を使ったデザートをつくる。 	1		
12	<p>第2節 家族・家庭と社会とのかかわり</p> <p>1. 家族とは？ 家庭とは？</p> <p>2. これからの家族を考える</p> <p>3. 家族・家庭をまもる法律</p> <p>4. 家族・家庭を支える社会保障制度</p> <p>テーマ学習 家事の役割分担を考える</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人間形成の面での家族の基礎的役割とその重要性について理解する。 ・家族周期の意味を知り、家族の発達段階によって課題がそれぞれ相違することを理解する。 ・家族・家庭に求められている諸機能とその変化について理解する。 ・世帯の動向にみられる特徴とそれを規定する社会的要因を分析し、検討する。 ・家族形態の相違による家庭生活のあり方について検討し、その多様性を理解する。 ・家族の信頼関係によってつちかわれる精神的・社会的な人間形成の重要性について理解する。 ・多様化・個性化の時代を迎え、家族をまもる法律(民法)の重要性がいちだんと増していることを理解する。 ・人の一生と法律とのかかわりおよび家族に関する法律について理解する。 ・改正案と比較しながら現行民法の問題点を考える。 ・社会保障制度の必要性和そのしくみについて認識し、それぞれの範囲について理解する。 ・安全で快適な生活を送るためには、各自の自助努力のみでなく、国による法的な整備や地方自治体による行政措置が必要であることを理解する。 ・1章の学習内容を振り返り、家事労働について考える。 	1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・ワークシート ・ノート提出 ・実習レポート <p>【視聴覚教材】</p>
1	<p>5章 経済生活を営む</p> <p>1節 私たちの暮らしと経済</p> <p>①経済生活の中身を知る</p> <p>②家庭経済と社会とのかかわりを知る</p> <p>③将来の経済生活を考える</p> <p>2節 消費者問題を考える</p> <p>①消費者問題はなぜ起こるのか</p> <p>②契約トラブルとその対策</p> <p>【調理実習③】 洋風献立－オープンを活用した献立 グラタン、グリーンサラダ、コンソメジュリアン</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭の収入と支出をとおして家計の構造を理解する。 ・家庭の生活を支える収入と支出の運営など、家計管理について理解する。 ・家庭経済と国民経済とのかかわりを理解し、家庭の経済計画、予算計画の必要性を認識する。 ・経済現象に対して、正確な知識や情報を収集し主体的に判断し行動する態度を身に付ける。 ・個人や家族の生活目標を実現するには、経済計画が必要であることを理解する。 ・家庭のリスクへの対策も考慮すると、短期・長期の両面から経済計画が必要であることを理解する。 ・大量生産・大量消費の時代に商品の購入と消費をめぐって消費者側が不利益や被害を受けたことを契機に消費者問題が生じたことを理解する。 ・消費者として適切な意思決定のもとに権利を行使し、責任ある消費行動をとっていこうという態度を養う。 ・有用な生活情報を取捨選択して収集・活用していくことが重要であることを理解する。 ・財・サービスの購入はすべて契約であることを知り、契約の重要性を理解する。 ・消費者被害の事例をとおして、消費者被害の状況を理解し、消費者被害が起こる原因を考える。 ・契約後でも、考え直して解約する方法があることを理解する。 ・契約に対する責任を自覚し、問題商法にあわないための注意、予防法を考える。 ・栄養バランスの観点から、サラダなどの副菜を考える。 ・様々な料理に応用できるホワイトソースでグラタンをつくる。 	1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・ワークシート ・ノート <p>【パワーポイント】</p> <p>【視聴覚教材】</p>

2	<p>③クレジット利用のリスク</p> <p>④消費者の自立と行政の支援</p> <p>8章 住まう 1節 人の一生と住まい ①気候・風土と住まい</p> <p>②人と住まい ③平面図の活用</p> <p>④ライフステージと住まい</p>	<ul style="list-style-type: none"> 販売方法、支払い方法が多様であることを知り、購入時に適切な判断が必要であることを理解する。 消費者信用について理解し、利用に際しては、慎重におこなう意識と対応策を身に付ける。 消費者関連のさまざまな法律が制定され、国や各都道府県の機関が設置されていることを理解する。 消費者は、生産者や行政に自分達の意向を伝え、その実現に向けての義務と責任があることを理解する。 さまざまな消費者問題の発生のなかで、消費者の権利が制定されたが、消費者の責任についても提唱された。消費者の権利の保障とともに、消費者一人ひとりに責任があることも理解する。 人にとってなぜ住まいが必要なのか、住まいの発生をさかのぼって考える。 人生のライフステージに必要とされる居住条件と住まい方について考える。 日本各地にみられる特徴的な住まいを比較し、住まいは条件の異なる地域の気候や風土に応じてつくられたことを理解する。 昔の住宅から現代の住宅までの日本における住まいの変化を理解し、それぞれの時代の家族のあり方や住まい方を考える。 住居の平面図から、そこに住む人がどのような住まい方ができるか考える。 自分らしい生き方を意識し、自分のライフスタイル(暮らし方や好み)にあった住まいの条件を考える。 	2 2 2	<ul style="list-style-type: none"> 期末テスト 授業態度 発問評価 ワークシート ノート提出
3	<p>2節 住生活の計画と選択 ①快適で健康な住まい</p> <p>②住まいの安心・安全</p> <p>③住まいの維持管理</p> <p>3節 これからの住生活 ①住環境とまちづくり</p> <p>②地球環境に配慮した住生活</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日照・採光・通風・温度・湿度・遮音などの住環境が、健康な生活に大きな影響を与えることを理解し、衛生的な室内環境を整備するためには、どのような工夫が必要か考える。 住居内で使用される化学物質による空気汚染などの実態について知り、健康と住環境について関心をもち、安心して住めるよりよい住環境について考える。 地震等の自然災害や、火災等の人的災害への対策について考える。 家庭内事故の原因について知り、乳幼児や高齢者、障がい者などの家庭内事故を防止するために必要な安全対策を考える。 住まいの耐久年数を維持するためのメンテナンスについて理解を深める。 戸建て住宅と集合住宅の違いについて調べ、今後の住生活の課題について考える。 長期優良住宅など、住まいを長く使い住み続ける工夫を知る。 住宅性能表示制度など、良質な住まいを安心して取得するための法制度について知る。 身近な地域の住環境について分析し、「住みよい環境」のためには何が必要か考える。 地域の活動について調べることにより、さまざまな生活条件をもった人びとが、安心して住めるよりよい住環境について考える。 自然環境や社会環境と住生活の関連について調べ、今後の住生活のあり方について考える。 	1 1 1 1 1	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 ワークシート ノート提出
年間授業時数				70